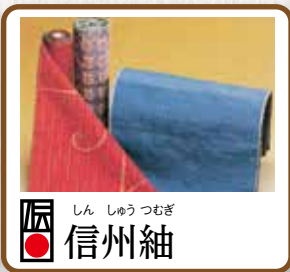


信州の伝統的工芸品



木曾漆器



信州紬



飯山仏壇



松本家具



内山紙



南木曽ろくろ細工



信州打刃物



まげもの
曲物



蘭松笠



お六櫛



木曾材木工芸品



長野県農民美術



白樺工芸品



軽井沢彫



秋山木鉢



桐下駄



信州竹細工



信州鋸



あけび蔓細工



信州手描友禅



龍溪硯



飯田水引



松代焼



栄村つぐら



信州からまつ家具



小沼箒



長野県手作り打上花火



信州組子細工

長野県内には、長い歴史の中で地域に生まれ、受け継がれてきた手づくりの伝統的な工芸品がたくさんあります。



経済産業大臣が指定する伝統的工芸品の表示マーク「伝統マーク」です。県内では7品目が指定をされています。



長野県知事が指定する伝統的工芸品の表示マークです。現在、21品目が指定されています。

長野県産業労働部

お問い合わせ先：
長野県産業労働部産業技術課 TEL.026-235-7132

信州の伝統的工芸品

経済産業大臣指定
伝統的工芸品

長野県知事指定
伝統的工芸品

●木曽漆器 塩尻市榑川 ほか



400年前から、土地に豊富に産するヒノキ材を材料に、カツラ、トチなどを木地として、ざたく、おぼんなどの日用漆器を生産しています。

●信州紬 松本市、上田市、飯田市 ほか



県内で盛んであった養蚕とともに発達してきた紬で、草木で作られた染料を生かした伝統的なしま柄が特徴です。信州紬は山繭つむぎ、上田紬、松本紬、飯田紬、伊那紬ほか県内各地で産出される紬の総称です。

●飯山仏壇 飯山市



300年前から造られている浄土真宗東本願寺派のお仏壇です。6つの工程に大別され、本組木地、弓なげし、胡粉盛りとよばれる伝統的技法により特徴あるつくりとなっています。

●松本家具 松本市 ほか



400年前から松本城の城下町で造られてきた家具です。ケヤキ、ミズメ、ウダイカンパなどの木地を使い、伝統的な技法により組まれたタンス、机などの家具はとてとても頑丈です。

●内山紙 飯山市、栄村 ほか



400年前から造られている和紙で、コウゾを原料に凍皮、雪ざらしと呼ばれる独特な技法で加工します。内山紙はとて丈夫で障子紙に加工され使われています。

●南木曽ろくろ細工 南木曽町 ほか



300年前から木曽路を通る旅人に使用されていて名古屋、大阪方面へ出荷されていました。職人自ら木選び・乾燥・ろくろ加工などの作業から販売まで行うのが特徴です。

●信州打刃物 信濃町 ほか



400年前の川中島合戦当時に地方を往来した刀匠から修得した技術で造られた刃物です。刃幅が広く強靱であることが特徴です。

●曲物 塩尻市榑川



木曽ヒノキを使い、伝統技術により曲げて、そば道具や茶道具を造っています。

●蘭検笠 南木曽町



江戸時代前期から、地元の木曽ヒノキを短冊状に裁断した「ひで」を組んで、雨傘・日よけ笠を生産しています。

●お六櫛 木曽村



ミネバリ又はツゲを用いて造られたすき櫛やとかし櫛です。江戸時代前期から、のこぎりを用いて手引きの技により造られています。

●木曽材木工芸品 木曽町、上松町、大桑村 ほか



木曽の木材により造られる小木工芸品の総称です。箱物類、おけ、たるなど家庭用品を中心に幅広い製品が造られています。

●長野県農民美術 上田市、東御市 ほか



大正時代に上田地方で始まり、ホウやカツラ材を用いて季節の風物等を題材に、手彫りにより装飾品などが造られています。

●白樺工芸品 松本市 ほか



白樺材による、登山風俗やアルプスの動物などを題材とする郷土色豊かな手彫り工芸品です。

●軽井沢彫 軽井沢町



明治時代に別荘に居住する外国人向けの彫刻家具として製作が始められました。桜の花を彫刻した独創的な製品は別荘客や観光客に好評です。

●秋山木鉢 栄村



地元に豊富に産するトチを用い、手彫りで造られています。大径木による大きな鉢に特徴があります。

●桐下駄 栄村



地元の良質な北越桐をつかった桐下駄で明治時代後期より、独特な履き心地から使われてきました。

●信州竹細工 長野市戸隠、山内町、伊那市 ほか



江戸時代の頃から県内の根曲り竹、箆竹(すずたけ)の産地でかご類が製造されていました。

●信州鋸 茅野市 ほか



江戸時代から造られている鋸です。鍛冶用の炭に使う松が多く、八ヶ岳の気候が鍛冶に適していたため、発達してきました。

●あけび蔓細工 野沢温泉村 ほか



江戸時代初期から冬期間の副業として、あけびの蔓を利用し、おもちゃやかごなどの日用雑貨が造られてきました。

●信州手描友禅 長野市、上田市、松本市、飯田市 ほか



江戸時代から県下の城下町を中心に発達し、本県特有の草木染友禅をはじめ、ほとんどの工程が手作業で高い技術を要します。

●龍溪硯 辰野町



江戸時代末期から、伝統技法の手彫りにより製造されている硯で、辰野町横川でとれる「龍溪石」からすずり造られています。

●飯田水引 飯田市 ほか



元禄時代に元結製造の原紙を用いて、生水引が造られたのが始まりとされ、元結に代って紅白水引などの生産が拡大しました。金封、結納飾りや鶴亀、松竹梅など立体的な製品も造られています。

●松代焼 長野市



200年前から、松代藩の奨励により生産されるようになりました。鉄分の多い地元の粘土などを使用し、天然素材で調合した釉薬を二重掛けすることで、素朴な造形と独特な青緑の光沢を出しています。

●栄村つぐら 栄村



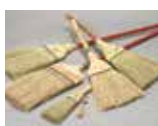
明治時代以降、子守りのための「ぼぼつぐら」が稲わらで造られ、昭和時代初期には小型の「猫つぐら」が使われていたと言われています。手作業で編み込んだ「猫つぐら」や「飯つぐら」などが造られています。

●信州からまつ家具 松本市 ほか



昭和34年頃から、長野県工業試験場の研究成果をもとに、長野県家具工業会によるからまつ家具の製造が始まりました。カラマツ材を持つ木目の美しさと軟らかい風合いを活かしながら造られています。

●小沼箆 飯山市



ホウキグサを手で束ねて編み上げる、手作りによるほうきです。見えないところも丁寧につくることにより、丈夫で長持ちします。

●長野県手作り打上花火 長野県全域



約300年前頃から神社の祭事に合わせ奉納花火が作られるようになり、昭和初期には八重苺菊花火を国内で初めて開発・完成させました。現在も県内各地で、手作りの打ち上げ花火が上げられています。

●信州組子細工 長野県全域



江戸時代以前から、神社、仏閣、城等々に使用されてきた組子細工です。明治以降、建具業が専門化し、障子や欄間、衝立などでも使用されるようになりました。

